

元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2023年12月25日 第1148号「週刊五十嵐レポート」

ニッチ狙い、最高益

12月20日付日経新聞、「静岡のFA大手、ニッチ狙い最高益」という記事。

静岡市のファクトリーオートメーション(FA)大手、協立電機が業績を拡大。 社員のアイデアなどから次々に開発を進め、ニッチな需要を取り込む戦略が 奏功(そうこう・目標通り成果が上がること)。「失敗も財産。研究開発は年間 打率2割」。(23年6月期売上高336、経常利益23、当期利益15、単位:億円)

常に20~30件の開発を平行。年間開発費は5~8億円(売上高比1.5~2.4%、経常利益比20~35%)。1年以内に製品化できるのは2割以下。多くは5~10年かかる。

開発を進める重要なポイントは、流行の最先端を後追いしないこと。先端半 導体や5Gなどの市場は魅力的だが、開発に巨額の投資が必要、且つ市場 の移り変わりも早い。商機は得意なニッチ分野。だから「同業他社はいない」。 (オンリーワンということ)。

1社の取引先に依存しない。自動車産業では、部品メーカーなどが「ケイレツ」と呼ばれる自動車メーカー独自の供給網に加わり、供給先への依存度が高くなる。協立電機は1社当たりの売上高構成比を最大3%程度にとどめる。(特定の1社に依存すると、生殺与奪権を取られる。「No」と言えなくなる。更に、取引先が業績不振になると自社も悪くなる。協立電機はそれを避ける)。

適正価格で売る。「下請けにはならない」(自分で値付けができる。下請けは取引先が価格を決める)。

2023年6月期決算によると、1人当り経常利益3,195千円、1人当り純利益2,062千円、1人当り自己資本23,041千円、損益余裕率(経常利益・粗利益)37%。高収益企業である。

ここから小さな会社が学ぶものは、

- 1. 流行を追わない(しかし、時代を読む)。大きな市場を追わない。
- 2. 得意分野を磨く。大手が手を出さない小さい市場(ニット)を狙う。
- 3. 価格を自分で決める。下請けにならない。
- 4. 顧客を分散。特定の会社に依存しない。



12月23日付日経新聞、「労働生産性、最低の30位」という記事。

日本生産性本部が発表した2022年の日本の時間当たり労働生産性は52.3 ドルだった。OECD加盟の38ヶ国中30位で、比較可能な1970年以降で過去 最低を更新。年間の1人当りの労働生産性は85,329ドルと31位、製造業の労 働生産性は94,155ドルで18位。

日本生産性本部の資料によると、日本の1人当りの労働生産性の推移をみると、1970年20位、1980年20位、1990年13位、2000年20位、2010年21位、2020年29位、2022年31位。元々日本の1人当りの労働生産性は高くはなかった。高度成長期でも20位。2010年以降ここ10年で、20位から10位ほど順位を下げた。想像できるのは、海外よりIT・デジタルの活用が遅れてきたことに起因する。

ちなみに1人当りの労働生産性の上位は、1位アイルランド255,296ドル、2位ノルウェー219,359ドル、3位ルクセンブルク182,738ドル、4位米国160,715ドル。日本の2倍~3倍。何がこんなに違うのか。「努力」「根性」という精神面ではなく、根本的に「何」かが違う。

「思考」「戦略」・・・



利益を還元する

益(えき)は、上(かみ)を損して下(しも)を益す。民よろこぶこと 」かぎりなし。(風雷益 ふうらいえき)

風雷益(ふうらいえき)の卦(か)は山沢損(さんたくそん)の卦と「損益」で一対になり、経済の基本ともいうべき循環の法則を学ぶことができる。

山沢損の卦は、民が質素倹約して国益をもたらす。これに対して風雷益の卦は、国が民を助けて富ませようとする。民は喜び、その結果、国も民も限りなく利益を生ずる。

「能(よ)く損すれば即ち益(ま)す」という言葉があるが、利益を還元しない国家、会社組織はいずれ倒れることになる。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- ●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- ●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

(株) 五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5 IEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

